

家のまふく KUMIKO

真壁構造体で製作見学会

杉の間伐材を利用
来月、据付見学会も

合同会社・地球と家族を考える会（本社＝郡山市開成4丁目28の17、嶋影健一代表）は26日、郡山市安積町の県郡山地区木材工業団地共同組合工場で「真壁構造体」の製作見学会を開いた。地域共生住宅として同社がブランド化を進めている「ふくしまの家KUMIKO」の建築に使用する杉の間伐材をパネル化した

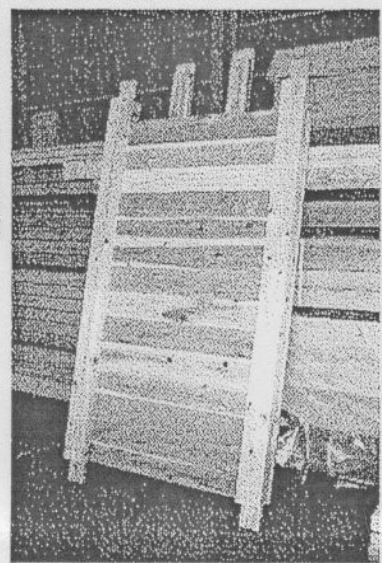
板壁構造体。間伐材の利用促進に加えて工期短縮やCO₂削減などの効果も期待されている。10月

19日には、建設中の住宅展示場で据付見学会も開く。

製作見学会には工務店や建築士、木材関係者など約20人が出席。嶋影代表が「地域の杉材を使用し、その地域の人たちが組み立てていくシステムを作っていく」とあいさつし、真壁構造体の特徴や製作工程などを説明した。

真壁構造体を使用するのは県内産の杉の間伐材。厚さ35mmに加工した杉板を1m間隔に置いた4寸柱（120mm）の間に落とし込んで繋ぎ合わせてパネル化する。土台は桧で、金物は極力使用しない。正倉院や伊勢神宮などの寺社仏閣建築などに用いられてきた「板倉構法」の長ホゾ、込み桧、ダボ、貫など伝統木構法に同社独自の技術を加え、壁倍率2・2倍、5倍を達成、大臣認定も取得した。事前に工場で作成するため、建て方から完成まで約1カ月の工期短縮を可能にする。

ふくしまの家KUMIKOは、同構造体を組み上げていく伝統軸組構法で建築する。県の「ふくしまの家地域活性化支援事業」の認定を受け現在、須賀川市雨田の大東中学校南側に展示場（モデルハウス）を建設中で、11月



下旬に完成する。伝統工法に地元の木を生かした地産地消の家づくりを目標に①地球温暖化防止②間伐材の利用促進③伝統木構法の技術継承④地産地消による地域経済活性化⑤植林および間伐などによる山の育成と美しい里山形成―を目指す。同展示場の建築では37立方メートルの県産杉材が使用される。

構造体を現地で組み立てる据付見学会は19日午後1時半から。参加など詳しくは024（943）5400（建築工房内・担当＝嶋影氏）まで。

10月19日には、建設中の住宅展示場で据付見学会も開く。



真壁構造体の組み立て風景（上）と完成形

浄化槽設置整備事業

30市町村が補助額維持

県が今年度から制度見直し

県が今年度から浄化槽設置整備事業の県費補助を見直したことを受け、県内30市町村が県費分を負担することで補助限度額を交更せず、18市町村が補助限度額を減額した。県浄化槽協会が個人設置型を実施する50市町村に対して調査したもの。県は今年度から単独処理浄化槽、くみ取り便槽の撤去費への上乗せ補助を創設する一方、これまで負担していた、新築などの場合の設置補助を対象外としており、撤去費については単独処理浄化槽で12市町村、くみ取り便槽で6市町村が市町村単独の上乗せ補